

兵庫県産蝶類分布資料 (3)

ジャノメチョウ科 6種の記録

広畑 政己

はじめに

これまで県下で採集されたジャノメチョウ科の蝶は16種を数える。この中でウスイロコノマチョウは、時おり採集される程度で、偶産種と思われるが、クロコノチョウについては近年採集記録も増え、土着の可能性が強くなっている。

従って、このクロコノマチョウを土着種として加えると、県下では15種が土着種ということになる。

美しいゼフィルスや、大型で目につきやすいアゲハチョウ科やタテハチョウ科の蝶は好んで調査も行われるが、ジャノメチョウ科の蝶は、地味で目立たないため人気もなく、分布調査となるとなかなか足が向かないのが実状である。

しかしながら、近年県下においても同好会が数多く発足し、同好諸氏の御活躍によって新しい産地も次第に増えている。

そこで、山本(1971)、山本・吉阪(1965)など以前に報告されたジャノメチョウ科に関する文献を基礎資料に、新しい記録を加え、県下に分布するジャノメチョウ科6種の採集記録を筆者の知る範囲で取りまとめて報告した。

本稿で取り上げた種は、県下では比較的珍しい種に絞って分布をまとめている。

ウラナミジャノメ、クロコノマチョウ、ウスイロコノマチョウ、ヒメキマダラヒカゲ、ヤマキマダラヒカゲは広畑(1981, a)(1981, b)(1982, a)(1982, b)で報告してきたので、詳しくはこれをお覧いただきたい。従ってこの度はその後に判明した新しい記録を中心に報告したい。

また、採集記録に関しては、本来ならば各産地ごとに初記録を掲載するべきところであるが、採集月日、頭数、詳しい地名など判らないものがあるので、それらの記録については筆者の採集記録か、手許にある記録を使用している。

この小文が、県下におけるジャノメチョウ科の分布調査やひいては生活史解明の一助になれば幸甚である。

本稿を草するに当り次の方々にはたいへんお世話になった。厚くお礼を申し上げる。

相坂耕作、石井為久、岩村巖、上田倫範、内海功一、尾崎勇、勝屋潤、木村三郎、黒田収、小坂文之、近藤

伸一、佐々木薫、清水浩二、高嶋明、高田忠彦、竹内俊行、藤原進、徳岡正己、西隆広、山本正勝、吉田豊、米村和繁、若林守男 (アイウエオ、敬称略)

1. クロコノマチョウ *Melanitis phedima* CRAMER

兵庫県では1951年に有馬温泉で法西定雄氏によって採集されたのが最初の記録のようである。その後20年間は図1-1の通り8ヶ所で12頭が採集されているだけで、1964年から1969年にかけては記録もないまま過ぎていた。

しかし、1971年から1983年にかけては、ほぼ毎年数頭が採集されるようになり、採集地も図1-2に見られるように、県下南部一帯から淡路島にまで及んでいる。

静岡県と長野県南部でも、1979年、1980年に多くの個体が発生しているが、本県においても1979年に7頭1980年には11頭、1977年にも多数の個体が採集されている。

これら暖地性の蝶が土着するためには冬期の気温が重要なポイントになることは言うまでもないが、1977年、1980年は厳冬にもかかわらず、例年より多くの個体が採集されるなど、冬期気温と発生個体数との相関関係に不可解なところもある。

1980年には5月4日に1♀と6月9日に1♂が採集されているが、これらの個体は前年の秋に発生したものが越冬したものである。この年の1~2月の気度は、最低平均気温が -1.2°C 、最低極値が -6°C 、 0°C 以下の日数は46日という厳しい冬でもあった。にもかかわらず越冬できたということは、県下では冬期の気温が越冬するためには重要なポイントになってはいるものの、決定的な条件にはなっていないように思えてならない。

現時点では土着しているかどうかの判断は難しいが、今後、個体群の密度が増えたり減ったりしながら土着していくのではないかと推測している。

1981年以前の詳しい採集記録や年次別月別採集個体数、冬期気温と採集個体数との関連などは広畑(1982)で報告しているので、それをお参照いただきたい。その後の記録としては次のものがある。

採集及び目撃記録例

神戸市灘区六甲学院構内 1♀12-X-1974 杜 隆史30)
 川辺郡猪名川町栃原 ——23-IX-1974 新家 勝31)
 飾磨郡夢前町大村 1ex(目)23-IX-1983木村三郎

図1-1 クロコノマチョウの採集地(1951~1970)

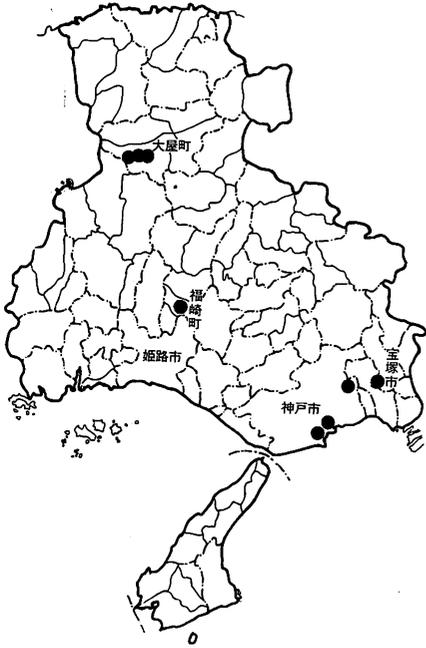
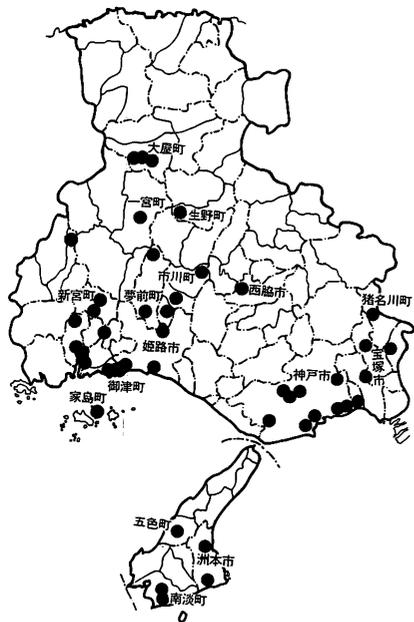


図1-2 クロコノマチョウの採集地(1951~1983)



2. ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus* FABRICIUS

県下に於ける本種の採集記録は古く、今から83年も前の1900年に樽谷明吉氏によって六甲山麓の御影地方で採集されたことが、山本(1971)に記されている。

本種は兵庫県においては比較的産地も多いが、近畿地方の他府県では珍しい種の1つでもある。県下の南部一帯では広く分布しており、加古川市、加西市、小野市にかけては池の周辺や山間の湿性草地で多くの個体が見られ、産地もかなり隣接して点在している。

このように、県下では前記の地域をはじめ南部の赤穂市から川西市にかけて産地は点々と続いているが県下の北部と淡路島からはまだ採集記録はない。

北限の記録は現在までのところ、氷上郡粟鹿峰となっており、これより北には産地は見つかっていない。

県下の中部では粟鹿峰の他に、篠ヶ峰、千ヶ峰、段ヶ峰、砥の峰、峰山、東山高原などの産地があるが、これらの産地の垂直分布は標高580m~1,000m前後となっており、近辺では低地からの記録がない。

中部山地での生息場所はその大半が山頂付近の湿性草原であるが、千ヶ峰は標高880m前後の普通の草地に発生しているようである。

一方南部では六甲山、芦屋市の奥池以外は低地に生息し、加古川市や赤穂市などは産地も多く、湿性草地があればほぼ確実に分布していることから、加古川、加西市、小野市周辺を綿密に調査をすれば、まだまだ産地は見つかるものと思われる。

反面、神戸市、西宮市、川西市などでは宅地造成などによって環境破壊がすすみ、すでに絶滅した産地や今後絶滅が予想される産地も少なくない。

また、中部山地の東山高原や峰山などに於ても、草地在植林されたり、クマザサや背丈の高い雑草、灌木に覆いつくされ、草地在維持できなくなり、本種の姿を近年見かけなくなっている。

成虫は低地では5月下旬から現れ6月中旬がピークとなる。山地では7月中旬に多くの個体が見られる。

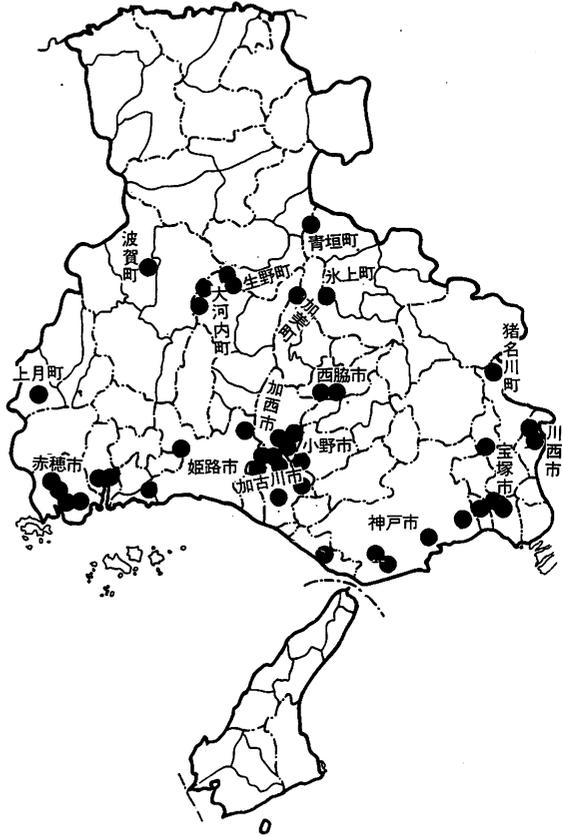
産地別に採集記録を1例づつ上げると次の通りとなる。

採集記録

相生市佐方	1♂	6-VII-1962	唐土洋一
〳 大谷町天ヶ台	1♂	25-VI-1956	米村知繁
赤穂市加里屋	1♀	1-VII-1972	松村邦正
〳 坂越春日	1♂	12-VI-1973	川端俊男

赤穂市大津	1♂	14-VI-1983	木村三郎
横山	2♀	21-VI-1974	岩村 巖 ¹³⁾
湯内谷	1♂1♀	21-VI-1974	穴村 巖 ¹³⁾
佐用郡上月町久崎	——	21-VI-1974	山本広一 ⁴⁾
揖保郡御津町碓岩	1♂	17-VI-1976	相坂耕作
姫路市小原	20♂♀	18-VI-1978	木村三郎 ⁸⁾
青山桜貯水池	1♂	10-VI-1979	坂野 —— ⁸⁾
加古川市平荘湖	2♂1♀	21-VI-1975	高嶋 明
志方町西牧	1♂	28-VI-1975	"
志方町中才	1♂	19-VI-1977	"
志方町成井	3♂	22-VI-1978	"
志方町西原	1♂	10-VI-1980	"
志方町山中	6♂1♀	22-VI-1980	"
志方町城山	5♂5♀	11-VI-1981	"
志方町野尻	3♂1♀	24-VI-1983	"
加西市網引町周辺寺	1♀	12-VI-1983	広畑政己
青野ヶ原	2♂1♀	12-VI-1983	"
野田町	1♂	18-VI-1983	石井寿久
神崎郡大河内町峰山	2♂1♀	15-VII-1973	広畑政己
大河内町砥峰	1♂	9-VIII-1981	"
宍粟郡波賀町東山高原	1♀	16-VII-1978	"
朝来郡生野町段ヶ峰	1♀	26-VII-1951	西村公夫 ¹¹⁾
生野町栃原	3♂2♀	13-VII-1952	吉阪道雄 ¹¹⁾
多可郡加美町千ヶ峰	多数	16-VII-1961	猪股・岡本 ¹²⁾
小野市下来住	1♀	9-VI-1947	山本広一 ³⁾
西脇市平野	1♂	——VI-1982	吉田 豊
野村緑風台	1♂	——VI-1982	"
八坂町	1♂1♀	14-VI-1980	徳岡正己
高松	——	9-VI-1959	名越観全 ³⁾
明石市松蔭新田	5♂1♀	14-VI-1959	尾崎 勇
神戸市須磨区落合	1♂	18-VI-1961	山本正勝
車の大池	16exs	10-VI-1964	三木 進 ⁹⁾
六甲山	13♂7♀	16-VII-1949	吉阪道雄 ¹¹⁾
垂水区太山寺周辺	——	——	—— ¹⁰⁾
須磨区妙法寺・多井畑	——	——	—— ¹⁰⁾
芦屋市奥池南町	1♂1♀	20-VII-1980	西 隆広
西宮市甲東園	1♀	14-VI-1939	吉阪道雄 ¹¹⁾
西宮市寺山西南斜面	——	——1958	—— ³⁾
甲山	1♂	4-VII-1976	法西定雄
上ヶ原	1♂	15-VI-1942	吉阪道雄 ¹¹⁾
仁川	1♂1♀	29-VI-1952	田中 蕃 ¹¹⁾
川西市東谷、一の鳥居	——	——	—— ⁵⁾
宝塚市武田尾	——	——	—— ⁵⁾
氷上郡青垣町粟鹿峰	——	——	—— ⁷⁾
氷上町篠ヶ峰	——	——	—— ⁷⁾
川辺郡猪名川町杉生新田	1♂1♀	6-VII-1980	山本正勝

図2 ヒメヒカゲの分布概念図



3. クロヒカゲモドキ *Lethe marginalis* MOTSCHULSKY

中部地方には産地も多いが、近畿地方では分布も局的となり、個体数も少ない。

県下に於ては、猪名川町、篠山町、三田市、川西市など東部地域と、千種町、一宮町、佐用町、相生市、など西部の地域など数ヶ所の産地が知られているが、いずれの産地でも個体数は極めて少ない。県下で最初に本種が発見された神戸市鈴蘭台などは、生息地が宅地に変貌し、過去の面影は今はもうない。

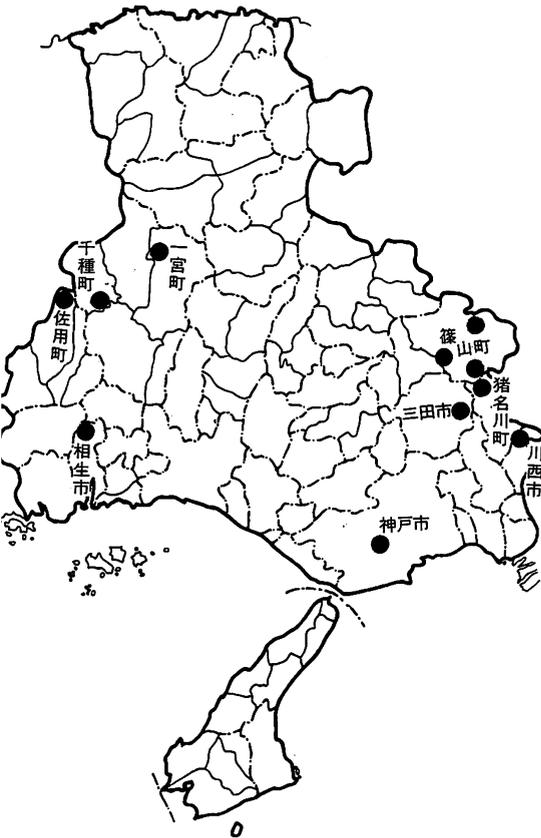
本種の食草はアシボソやチヂミザサなどイネ科の植物が知られているが、県下では相生市能下、三田市大磯、一宮町阿舍利、篠山町籠坊などでイネ科のススキから幼虫がみつまっている。

食草のススキはいたる所に自生しているので、もう少し広く分布していることを期待しているものであるが、個体群の密度が低い上に、本種が好んで生息している広葉樹林が少なくなり、より一層窮地に追いやられている感はまぬがれない。

採集記録

相生市三濃山中腹	1♂1♀	1-VIII-1980	唐土洋 ²⁴⁾
能下	幼虫1ex	31-V-1981	広畑政己
宍粟郡千種町鷹ノ巣	1♂	15-VII-1979	内海功一
一宮町阿舎利	1♂(羽化)	28-V-1978	白井祐一 ¹⁾
佐用郡佐用町日名倉山	幼虫	11-V-1975	若林守男
多紀郡篠山町籠坊	幼虫5exs	20-V-1963	田中 蕃 ²⁸⁾
篠山町小多田	3exs	10-VIII-1963	野上 正 ²⁶⁾
篠山町篠見48滝	4exs	18-VIII-1962	細見吉夫 ²⁶⁾
三田市大磯-宝塚市香合新田	前蛹1ex	16-VI-1963	田中 蕃 ²⁷⁾
川辺郡猪名川町大野山	—	24-VIII-1980	小坂利明 ²¹⁾
神戸市鈴蘭台	1♀	16-VIII-1950	—— ²⁵⁾
川西市東谷	1♂	15-VII-1960	若林守男 ²⁾

図3 クロヒカゲモドキの分布概念図



4. キマダラモドキ *Kirinia epaminondas* STAUDINGER

前種クロヒカゲモドキは、県下北部から東播磨を経て淡路島に至る分布の空白地帯を境に東と西にバラ

スよく分布しているのに対し、本種は西高東低の様相を呈している。

しかし、西に高いとはいふものの産地個体数とも少なく、これまで多産した産地に行ってもやっと数頭が見られる程度である。これらの産地の内、上月町久崎(秋里と思われる)は、1910年に井口宗平氏によって県下で最初に本種が発見されたところで、以前は個体数も多かったが、ここでも他の産地同様少なくなっている。

本種の成虫は6月中旬ごろから発生し、9月~10月にも新鮮な個体が見られるので、年2化があるのではないかとの疑問がもち上っていた。しかし、浜(1974)では、本種の腹部を切開して卵の有無を調べた結果、8月中旬ごろまでの雌の成虫には成熟卵がないことをつきとめている。

このことは、母蝶が産卵時期をコントロールして、光周期が短日条件になってはじめて産卵するということではないだろうか。

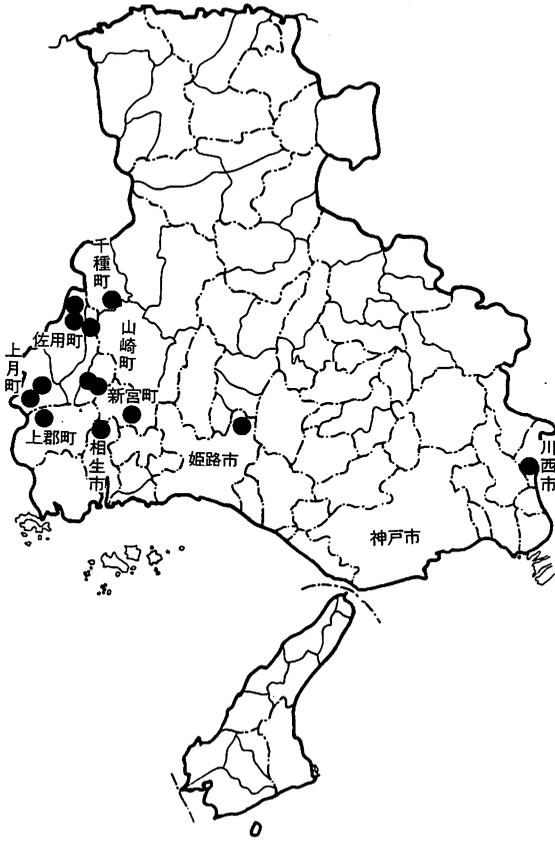
同じような産卵習性を持っている種にオオウラギンヒョウモンがあるが、この蝶は♀は大型で美しく、その上、生息地が草原ということもあって、採集も容易で、産卵する前に採集されてしまうということが環境破壊とともに個体数激減の大きな要因となっている。従って、どの産地でも今は壊滅状態になっている。

幸いにして、本種は目立ちにくく、この蝶に対する意識もオオウラギンとは比較にならないほど低く、その上、林の中で採集もしにくいので、伐採などによって環境の破壊がすまなければ、産地は存続できるものと期待している。

採集記録

佐用郡上月町岡坂	1♀	30-VI-1963	尾崎 勇 ²²⁾
上月町上秋里	3♂1♀	17-VI-1966	〃 ²²⁾
上月町下秋里	1♀	30-VIII-1981	広畑政己
佐用町奥海	1♂	28-VI-1966	岩村 巖 ²²⁾
佐用町海内	1♂	23-VI-1976	米村和繁 ²²⁾
佐用町水根付近	—	—	井出敏晴 ²³⁾
三日月町三日月	1♂	19-VI-1976	谷畑—— ²²⁾
三日月町田比	1♀	21-VII-1974	——
南光町船越	1♂	18-VI-1981	木村三郎
宍粟郡千種町鷹ノ巣	1ex	8-VIII-1981	小坂潤一
赤穂郡上郡町黒石	4♂	22-VI-1975	尾崎 勇 ²²⁾
揖保郡新宮町善定	1♀	中旬-IX-1980	黒田 巖
相生市三濃山	1♂	1-VIII-1980	唐土洋 ²⁴⁾
川西市多田	—	—	—— ⁵⁾
姫路市山田町多田	2♂	2-VIII-1960	中谷貴寿 ¹⁵⁾

図4 キマダラモドキの分布概念図

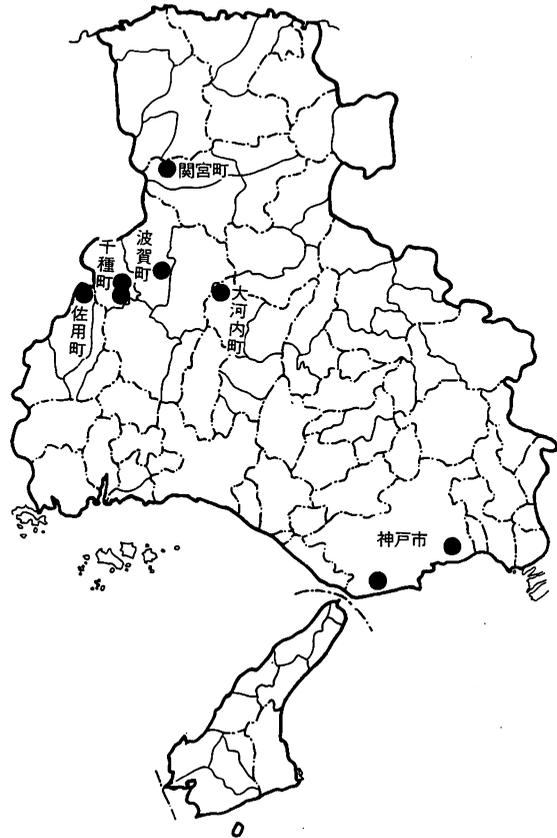


採集記録を産地ごとに1例づつ上げると次の通りとなる。尚、荒川(1971)に戸倉峠と山崎の中間付近で8♂2♀という記録があるが、これは、波賀町水谷の東山高原と思われるがはっきりしないのでこの度の採集記録の中には記していない。この他に一宮町福地や三室山にも産するようであるが詳細は不明である。

採集記録

佐用郡佐用町日名倉山	1♂	16-VII-1967	岩村 巖
神崎郡大河内町砥峰	—	—	— ¹⁹⁾
宍粟郡波賀町水谷	1♀	16-VII-1978	広畑政己
◇ 千種町鷹巣	2♂	6-VII-1980	花岡 正 ²¹⁾
◇ 千種町荒尾	3♂	19-VII-1981	高嶋 明
養父郡関宮町鉢伏山	1♀	4-VIII-1979	岩村 亮
神戸市須磨区多井畑	—	—	— ¹⁶⁾
◇ 須磨付近	—	—	— ¹⁷⁾
◇ 灘付近	—	—	— ¹⁸⁾

図5 オオヒカゲの分布概念図



5. オオヒカゲ *Ninguta schrenckii* MENÉTRIÉS

北村達明氏による1934年の須磨付近という記録が県下では最も古い記録のようである。

本種は北海道では低地にも分布するが、本州では山地性の傾向を示すようで、県下に於ても、神戸市の記録以外は中西部の標高550m~1,000mの山地からのみ知られている。これらの産地は中国山地の東の果てに当り、広島県から中国山地沿に続いた本種の生息地もここでいったん切れ、京都、大阪、京都、奈良など分布の空白地帯を経て滋賀県南部の生息地へと続いている。

3年前、花岡氏によって発見された千種町の鷹巣では、成虫もまだ見られるが、大河内町砥峰ではその後記録もないし、東山高原においても環境の変化で近年成虫を見ることが難しくなっている。

本種は鷹巣ではカサスゲを食しているが、日陰のカサスゲから日当りのよい休耕田の中に生えているカサスゲにまで幼虫が見られる。

6. ウラナミジャノメ *Ypthema motoschulskyi* BREMER & GREY

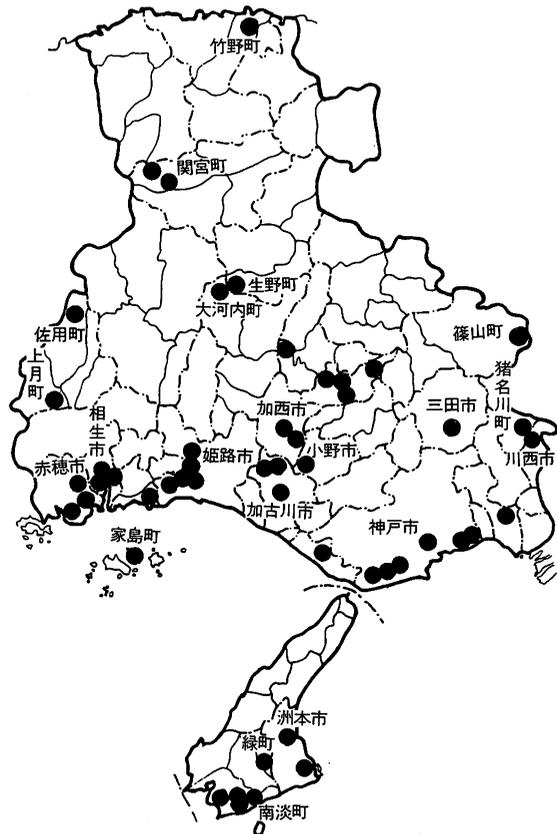
詳しくは広畑(1981, b)で報告しているので、この度は新しく発見された産地と他の同好会誌に発表された記録をまとめて報告をしておきたい。

本県ではヒメヒカゲと分布がラップするところが多いので、少し時期をづらせてヒメヒカゲの産地を調べればまだまだ新しい産地が発見できるものと思われる。

採集記録例

加西市青野ヶ原	2♂2♀	9-VII-1983	石井為久
〃 北条町段下	1♂	20-VI-1981	藤原 進
加古川市志方町中才	1♂	19-VI-1983	高嶋 明
姫路市井ノ口	1ex	15-VI-1983	上田倫範
川辺郡猪名川町龍化隧道	—	26-VI-1958	田中 蕃 ²⁹⁾
川西市笹部	—	3-VII-1966	小坂利明 ³¹⁾
神戸市六甲学院構内	1♀	30-VII-1968	杜 隆史 ³⁰⁾

図6 ウラナミジャノメ 分布概念図



参考文献

- 1) 白井祐一(1978)兵庫県下におけるクロヒカゲモドキの新産地 MDKNEWS 28(78):13.
- 2) 山本広一・吉阪道雄(1965)兵庫県産蝶類目録(4) 兵庫生物、5(4):52.
- 3) 山本広一・吉阪道雄(1960)兵庫県産蝶類目録(3) 兵庫生物、4(1):28, 44.
- 4) 山本広一(1953)兵庫県佐用郡久崎の蝶(2)、兵庫生物、2(3):167.
- 5) 山本広一(1971)兵庫県の蝶相、月刊むし(3):9
- 6) 木村三郎(1982)兵庫県におけるヒメヒカゲについて、てんとうむし(8):46.
- 7) 丹波昆虫研究会(1957)丹波の蝶、丹波昆虫(3):12
- 8) 相坂耕作(1980)姫路市の昆虫、てんとうむし(6):13
- 9) 三木 進(1979)六甲山系(西部)の蝶、きべりはむし、7(1):6.
- 10) 加藤昌宏・武衛晴雄(1981)神戸の蝶、神戸市立教研究所、神戸.
- 11) 日浦 勇(1969)日本列島の蝶、大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第1集.
- 12) 猪又涼一・岡本清(1962)多可西脇地方の蝶類(追報) 兵庫生物、3(3/4):177.
- 13) 岩村 巖(1979)西播の蝶分布資料(6)、ひろおび(4):6.
- 14) 岩村 巖(1968)西播の蝶分布資料(5)、兵庫生物 5(5):386-397.
- 15) 岩村 巖・中谷貴寿(1961)西播の蝶分布資料(1) 兵庫生物、4(2):136.
- 16) 谷口和義(1938)神戸産蝶類雑記(1)、昆虫界、6(5):761.
- 17) 北村達明(1935)須磨付近の蝶類、昆虫界、3(7):323-325.
- 18) 吉阪和親(1936)灘中学付近の蝶類、Natural(5):27-30, (6):26-27.
- 19) 西村公夫(1952)段ヶ峰山塊の昆虫類に就いて、Trans. Chugohu Ent. Soc. 2(2):39-44.
- 20) 荒川 良(1971)兵庫県のオオヒカゲ、昆虫と自然 6(10):3.
- 21) 花岡 正(1980)鷹の巣高原でオオヒカゲを採集する、てんとうむし、(6):26.
- 22) 尾崎 勇(1980)兵庫県の蝶相(1)、ひろおび(5):29.
- 23) 井出敏晴(1976)兵庫県産のキマダラモドキ、てんとうむし(1/2):14.

- 24) 唐土洋一(1980)三濃山ヘクロヒカゲモドキをたずねて、てんとうむし、(6):25.
- 25) 中口公一郎・吉阪道雄(1954)六甲山蝶類目録 MD KNEWS 別冊.
- 26) 辻 啓介・矢田 修・細見吉夫(1970)多紀郡蝶類目録(追報その2)、兵庫生物、6(2):158.
- 27) 田中 蕃(1966, a)兵庫県三田市のクロヒカゲモドキ MDKNEWS 18(3):41.
- 28) 田中 蕃(1966, b)兵庫県多紀郡のクロヒカゲモドキ MDKNEWS 18(3):41
- 29) 田中 蕃(1980)森の蝶ゼフィルス、築地書館東京.
- 30) 杜 隆史(1982)六甲山系の蝶、crude (23):72.
- 31) 仲田元亮(1982)能勢の昆虫(蝶の部) 大阪.
- 32) 広畑政己(1981, a)兵庫県産蝶類分布資料(1)てんとうむし、(7):30-34.
- 33) 広畑政己(1981, b)兵庫県に於けるウラナミジャノメの分布と生活史、てんとうむし、(7):1-5.
- 34) 広畑政己(1982, a)兵庫県産蝶類分布資料(2)、てんとうむし、(8):30-32.
- 35) 前川和昭(1983)洲本市にマウスイロコノマチョウ採集、parnassius (29):14.
- 36) 浜 祥明(1974)能勢のキマダラモドキについて、crude (11):2-4.
- 37) 川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑保育社、大阪.
- 38) 藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑、講談社、東京.
- 39) 広畑政己(1982, b)兵庫県に於けるヒメキマダラヒカゲの分布と化性について、ひろおび、(6):31-34.

(S. 28:

Masami Hirohata 姫路市)

西宮のウスイロコノマチョウ

法 西 定 雄

1983年8月30日PM.9:00頃、西宮市甲東園在住の今稔先生が阪急西宮北口駅の便所の壁にウスイロコノマチョウがとまっているのを見つけ、採集しておられるので、先生に代って報告する。

他に、某氏が新神戸駅で本種をみつけたことを聞いている。

(西宮市)

ミスジチョウの遅い採集記録について

広畑 政 己

本種は普通は年1化で、県下に於ては6月上旬から7月上旬にかけて出現し、それ以降の採集記録は、これまでに小学生の夏休みの作品展に出品されたのが1例あるにすぎなかった。この記録も、採集年月日の記入間違いではないかとも考えていたが、この度、高嶋明氏より、8月と9月の本種の採集記録2例を御教示いただき、希に2化をするものがあるのではないかという疑問を持った次第である。なぜなら、1化目の母蝶から生れた次の世代の幼虫に、何かの成長を抑制する力が加わらなければ、どんどん成長し、8月までに全プロセスを完全に消化できるはずだし、その次の世代の幼虫も、越冬にふさわしい令数にまで育つことも充分考えられるからである。また、本種を飼育してもわかる通り、幼虫の成長にばらつきがなく、羽化期も安定していること。例えば1982年の姫路市での野外飼育の結果では、30数頭の幼虫が4月下旬から蛹化をし、5月10日ごろから末にかけてすべて羽化しており、幼虫の成長に差があつて、だらだらと8月や9月まで発生が続くとは考え難いからである。

このような理由で、2化も希にありうるという推測をしたわけであるが、2化するという例は非常に希で、年1化という生活環が本種にとっては一番適しているということは、採集記録から考えても当然である。もし、2化があるとすれば、これも推測の域を出ないが、5月のそれも早い時期に成虫が発生した場合が考えられる。そして、その個体からもたらされた次の世代の幼虫は、日長など外的要因に影響されることがないので、成長が促進され、8月や9月に2化目が発生するということである。

なにはともあれ、2化ということについては、確証を得たわけでもないので、本種の遅い記録についての問題提起としておきたい。採集記録を御提供いただいた高嶋明氏にお礼申し上げる。

遅い採集記録

朝来郡生野町新原	1♀	16-VIII-1982	高嶋 明
宍粟郡波賀町音水	1♀	5-IX-1982	〃
飾磨郡安富町鹿ヶ壺	1♂1♀	8-VIII-1981	森 康行 ¹⁾

参考文献

- 1) 広畑政己・佐々木薫(1982)兵庫県南西部におけるミスジチョウの分布、ひろおび、(6):35-37 (S. 28.

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市)